

金儲けが目的の 入試への民間試験導入がとん挫！

英語民間試験の導入延期を発表する萩生田文科大臣（11/1）

NEXT
OF EDUCATION,
JRE, SPORTS,
TECHNOLOGY-JAPAN

突然 「自信持ってお勧めできず」
英語民間試験の導入延期

午前9時半ごろ

萩生田文科相

受験生の皆さんにおすすめてできるシステムに
なっていないと判断せざるを得ない

行動することは無駄じゃない！

文科省は11月1日、来年度大学入試への英語民間試験導入の延期を決定しました。教育を食物にしていく入試制度改悪に対し、多くの高校生や教育者が、抱いていた不満と怒りを、目に見える行動に変えたことが国の決定をとん挫させたのです！

行動は無駄じゃない。私たちも、将来の後輩たちの思いに応じて行動に立ち、理不尽のない広島大学をつくっていかうじゃないですか！

金儲け優先が招いたずさんさ

そもそも英語民間試験の導入は、2017年に発表された「予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てる」ことを目的とした、センター試験を「大学入学共通テスト」に切り替える大学入試改革の一部でした。

しかし、2年も前から決定し準備してきたことではずなのに、TOEICが今年7月に「処理が当初想定していたものよりかなり複雑」としていち早く共通テストから

撤退。人生のかかった受験生の命運を託せるようなシステムとは程遠いものだったことがTOEICの撤退からだけでも分かります。

英語民間試験で残ったのはベネッセ（GTEC）や英検など。その2社はなんと、導入決定前に文科省が設置した英語民間試験導入についての協議会に参加。絵に描いたような談合です。受験生は毎年50万人ほどで、試験は一回当たり6000円～25000円という高額。試験は受験年度中何度も受けられ、その内2回まで結果を反映させる仕組み。まさに「濡れ手で粟」の儲け話であり、制度設計さえおざなりのまま、受験生の人生が金儲けの道具にされたのです。

民間試験の
参加予定の英語の
共通テストに
参加する

英検
ケンブリッジ英語検定
GTEC
IELTS
TEAP
TEAP CBT
TOEFL iBT
TOEIC → 参加取り下げ

「身の丈」発言は本音そのもの

英語民間試験導入の問題性が大きく注目されるきっかけになったのは、10月24日のテレビ番組で、「民間の資格

広島大学学生自治会

委員長 森田寛隆
hiro dai86@yahoo.co.jp
http://hiro dai86.blog.shinobi.jp/



試験を使うということは、お金や場所、地理的な条件で恵まれている人が受ける回数が増えるのか。公平性はどうか」という質問に萩生田文科相が「『あいつ予備校通っていてズルいよな』と言うのと同じだと思うんですよね。…そこは、自分の身の丈に合わせて、2回をきちんと選んで勝負して頑張ってもらえば」と返した「身の丈」発言。不公平な試験制度であることを認め、現在の教育も不公平だから問題ないと開き直ったわけです。

11月1日に民間試験導入延期を発表する際には萩生田大臣は「自信をもってお勧めできない」などと言い放ちました。公平性を担保しようともせず、「身の丈」にあった努力をしろなどと居丈高に振る舞って、「自信を持ってない」など、ふざけきっています。

高校生が立ち上がった

ずさんであっても、そうとうに強引に推進されてきたのが民間試験の導入でした。今年8月には大学生が街頭演説中の文科大臣に対し「入試改革白紙撤回」「民間試験撤廃」を訴えてヤジを飛ばしたところ、(犯罪でもないのに)警察に取り押さえられたということがあり



ました。当時の文科大臣柴山は「大声を出すことは権利として保障されているとは言えない」と、言論の自由を堂々と封殺する態度をとりました。

こうした弾圧にも屈せず、高校生や高校の教員らが行動に立ち続け、10月に150人が集まった抗議集会を開くなど、地道に世論を喚起するよう努力してきたことがあって、ようやく民間試験導入延期に至ったということです。一度きりの行動では変わらなくても、諦めないで継続された行動が、決定的な契機と結びついて結果につながる。正義ではなく理不尽がまかり通る時代、大事なものは諦めないで行動することです。

広大で起きていることも同じだ

大きな影響を与える変更さえずさんに進められていく構図は、広大でこの間進められていることと同じです。

ひとつは大学院の無理やりの統合・縮小。広大の大学院は来年度から11から5つにまで減らされることになっています。統合による事務員や教員の削減が予想されますが、全くどうなっていくか見通しはありません。

もうひとつは、学生のほりビラや立て看板の全面禁止です。学内でのサークルや部活の勧誘・イベント手段は皆無に等しくなり、新歓も厳しくなって潰れていくサークルが増えることが考えられます。代替手段などは考えられていません。古澤修一・前学生支援担当副学長は「サークルの数を減らしたい」とも発言しています。

高校生や先生たちの地道な取り組みが、国の決めた民間試験導入をとん挫に追い込んだように、私たちが諦めずに行動をはじめましょう！

【投稿】ほりビラ・立て看板全面禁止に対して意見！

広島大学では、ビラ掲示と立て看板が全面禁止されようとしています。これによって、大学にとって都合の悪い内容を表現することが出来なくなろうとしています。

学生に不人気の政策としてターム制などがありますが、規制が強まる中、最近では批判する人も見かけなくなりました。これは大学に対して不満を持っている人はいるが、現状を変える事が出来ないと悟り諦めてしまった、あるいは不満を言えない状況が当たり前だと捉えるようになったのではないかと考えています。

これだと学生が、組織にとって都合の良い従順な歯車として量産されるのではないかと不安です。

このような歯車は社会のニーズに合っているのかもしれませんが、それは大学と社会の両方が間違っているから起こっている事態です。大学は本来、言われた事を従順にこなす場所ではなくて、自分の関心に基づき真理を追究し、モラトリアムを楽しむ場所です。

広大生の皆さんには、まず今の大学が異常であると認識し、本来の大学を取り戻すために共に行動して欲しいです。さらに大学だけではなく、学生を労働力商品と見なしている社会全体も変えていきましょう。多くの方が立ち上がるのを待っています。

(広大生・匿名希望)